

一般質問の要旨



市の玄関口としての高麗川駅について

和田 貴弘

問 高麗川駅の自由通路と駅周辺の整備状況は。

答 高麗川駅東口開設に向けた自由通路及び駅舎の整備は、JR東日本と締結した実施設計協定に基づき、来年度に予定している工事に備え、細部の設計協議を進めている。駅周辺の工事関係では、市役所通りから駅東口へのアクセス強化を別途とした交差点改良工事を着工している。

問 JR貨物所有地の今後について市は把握しているか。

答 市としては、JR貨物に対し、東口開設を見据えた有効な土地利用を依頼しているが、現時点では検討段階に至っていない。駅東口より南側の土地は民間での活用を、北側の土地はJR東日本との調整を経た上での活用を検討されるものと認識している。

問 駅西口へのアクセスなどを考慮した市道A1458号線の拡幅と駅前通りへの直結の考えは。

答 この路線は、高麗川駅へのアクセス道路として地域の方々に利用されており、平成27年度に駅入口交差点との接続も含めた線形改良の検討を行った経緯があるが、地形の傾斜や高低差などの問題があることや、駅入口交差点への接続には、農地を通過するルートを新設する必要があり、交通量の大幅な増加が見込まれるなど、懸念材料が多く、また、多額の費用を要することから、進展していない。当該路線は、車両のすれ違いが困難な道路であり、部分的な待避所等を検討する必要がある。一方、右折がしにくい駅入口交差点の信号機は、右折信号や時差式信号等への変更について、

飯能警察署に確認したい。

高麗川駅の歴史を伝えることについて

問 現在の木造駅舎は、いつ頃まで残るのか。

答 現駅舎を使用しながら仮駅舎を建築し、供用開始後に現駅舎を取り壊すことになる。少なくとも令和5年度前半までは残ると思われる。その間の駅の歴史を伝える資料の有無を調査し、必要なのは寄贈を受け保管していくよう調整する。

問 市は、県の事業である埼玉川の再生「水辺deベンチャーチャレンジ」に応募しているが、この事業におけるコンサルタンの活用については、どのような考えでいるか。



国鉄時代の高麗川駅



埼玉川の再生「水辺deベンチャーチャレンジ」の進め方について

大川戸 岩夫

問 市は、県の事業である埼玉川の再生「水辺deベンチャーチャレンジ」に応募しているが、この事業におけるコンサルタンの活用については、どのような考えでいるか。

答 事業計画の検討に当たり、専門のコンサルタント会社等を活用することとは、より多くの事例やアイデアなどの情報を収集することができ、水辺空間の利活用方針等の策定に有益であると考えている。

問 河川などに新たな魅力を創出する本事業を検討するに当たって観光客の利便性の確保や交通渋滞の緩和の計画はあるか。

答 今回の事業は、季節に関わらず、1年を通じて地域に賑わいを創出させるような水辺空間の利活用を考えており、関係機関との連携を密にしなが



清流高麗川と野鳥の風景

公道に面した民有地の樹木への対応について

問 公道に面している民有地から樹木の枝が伸びたまま放置され、市民の通行を阻害している場所が増えている。場所によっては通学路に面した現場もあり、落ち葉の散乱等で足が滑ってしまい、そのような危険な状況も見受けられる。これらについて、どのように樹木の管理を所有者にお願いしているのか。また、管理状

況をどのような方法で点検しているのか。

答 公道に面した民有地が適正に管理されていない状況を確認した際には、土地所有者へ改善いただく旨を文書や口頭により伝え、理解が得られるよう努めている。また、管理状況については、市職員による現場での目視点検を行っている。

問 樹木が適正に管理されていない場所に対する注意喚起の実施状況は。

答 草木の越境の相談件数は、年平均で100件を超えている状況であり、その内の約9割の現場については、1回の依頼で対応していたが、残りの約1割の現場については、複数回の依頼をしなければならぬ状況である。このため、年に数件は対応が困難なケースもあり、課題となっている。